かさまつの子

笠松町道徳教育連絡会議

高齢者から学ぶ

笠松中学校では、三年生が『人との共生』と言うテーマで総合的な学習を行っています。一学期は各クラスで福祉施設などを訪問し、高齢者のかた障害のあるかたとのふれあい体験を通して、自分たちの生き方の参考にしようと考え取り組んでいます。

訪問先には「笠松病院　喜びの里」、「小規模授産所」、「穴太部サロン」、「愛生病院　シルバーポートふれあいの家」などがあります。そのなかの「愛生病院　シルバーポートふれあいの家」を訪問したときにPTA母親委員会もボランティア活動として一緒に参加させていただきました。

初めに、合唱で高齢者のかたに歌を聞いていただき、その後各班に別れてテーブルごとに、トランプ、紙芝居、お絵かき、風船などでいっしょに楽しみました。

ここには、車いすのかた、体の不自由なかた、軽い痴呆のかたといろいろなかたが入所しています。最初はどう接したらよいのか分からず、互いに顔を見合わせ戸惑っていました。介護職員のかたから「大きな声で相手と同じ目線で話しかけてください」とのアドバイスをいただき、思い切って呼びかけると返事が返ってきました。トランプ、お絵かきをしていくと徐々に打ち解け、紙芝居では「懐かしいね」、「子どものころよく見たね」と大変喜ばれ、熱心に聞いてくださいました。ゴム風船を手でつくゲームでは、自分のところに来た風船を必死に相手の方に送り返そうとされ、楽しいひとときを過ごしました。

最後は、合唱で締めくくりました。すると高齢者のかたから温かい拍手をいただき「また来てね。待っているよ」の声に送られて帰ってきました。

この施設の高齢者のかたは、家族から離れて生活しておられますので、訪問をすることで喜んでいただけたと思っています。

最近、核家族化が進み、高齢者のいらっしゃらない家庭が数多くあります。また、いらっしゃっても非常に元気だったりします。施設にいらっしゃる高齢者は何らかの障害のあるかたたちで、そのかたには「相手の立場になって接していく」ことが大切ではないでしょうか。

多くの人々とのふれあいを通して学んでいく笠中三年生の総合的な学習から素晴らしい生き方を学んでくださることを期待しています。

笠松中学校PTA
母親委員長　森　伊智子

教育委員会だより

教育電話相談

～悩んだら気楽に電話してください～
郡四町教育委員会
☎245・1133

人権の尊重

住民の皆さんが、自分の身の回りにある様々な偏見や差別に対して、きちんと対応できる力を身に付け、自分自身の人権感覚を磨くため、人権同和に関わる研修会が羽島郡各町で行われています。教育委員会では、この秋に岐阜県人権啓発センターの髙平利男先生を講師に迎え、羽島郡人権同和研修会を開催し、「人権とは何か」を学習しました。

私たちが人権侵害と感じるのは、噂や陰口、悪口を耳にしたときです。また、ちょっとした表現が人権侵害だと感じることもあります。例えば、落ち度があることを「片手落ち」と言ったり、交通手段がないことを「足がない」と表現したりすることは好ましくありません。このように、普段、私たちが何気なく使っている言葉が知らず知らずのうちに周りの人を深く傷つけてしまっていることがあります。だからこそ、今まで気付かないでいた人権について学ぶ必要があるのです。他にも「女性・子ども・高齢者・障害者・同和問題・アイヌの人々・外国人・感染症被害者等・刑を終えて出所した人・犯罪被害者等・インターネットによる人権侵害」など人権に関する課題はたくさんあります。これからは、これらのことについて日常の生活の中でしっかり認識、判断、行動できることが求められます。

皆さんも是非、関係機関主催の人権同和の学習会に参加しましょう。それが自分の人権感覚を磨く近道になります。大人も子どもも人権学習は、生きているうちはずっと必要なのです。